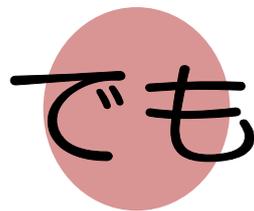




# やる気相談室



## 本書は全編を「でも」で読むのもいいかも

「でも」という使ってしまう

「でも」といふ言い訳です

がこれについてでも腑に

落ちる記事がありました。

一時期マスコミを賑わせ

たホリエモンこと堀江貴文

氏のコメントはネット上で

大人気なのだそうです。そ

の堀江氏が「本音で生きる」の

という本を出版したという記事がありました

た。ネットで調べてみると堀江氏は実に沢山

の本を書きこいていて正直びっくりしています。

まだ、読んだことがないため、今度機会があ

れば読んでみたいと思います。

その記事の中に本音で生きるために必要

なことは、①お金を稼ぐことです。

②「でも」をいふ「言い訳」を減らすことです。

③「大げさな」ことをいふのを減らすことです。

④「田舎者」や「下町」を捨てることです。

⑤「でも」をいふのを減らすことです。

全部を記載すると長くなってしまうので、

一番ハッとさせられた「言い訳」しないとい

うことの概要をシェアしたいと思います。

(以下引用)本音で生きるために、まずや

るべきは、「言い訳をしない」ということです。

ある。僕はメルマガを含め、人から相談を受

けることも多いが、せっかくなので「でも」で

も〇〇だから、それはできないんです」と言

われることがかなりある。その「でも」が、

自分自身を不自由にしていることに気がつ

かないのだろうか。たとえば、「お金がないか

らできない」「という言い訳。いまや熱意とや

る気があれば、お金や人を集めることは不可

能ではない。たとえば、クマムシ研究家の堀

川大樹さんは、有料メルマガ、LINEスタ

ンプなどをつくって、自分自身で研究資金を

稼ぎ、自分のやりたい研究を自由にできる環

境を作り上げている。そもそも疑問に思うの

だが、「お金がないからできない」と言ってい

る人は、いったいいくらのお金があればいい

きなのだろうか。お金が問題ではない人も多

いように感じるのだが。「時間が足りないから

きない」という人もよくいるが、成功する人

には時間があるって、成功しない人には時間が

ない、なんてことは当然ながら、ない。「時

間がない」というのは、「それを始めると今

やっている何かをやめなければならぬが、

それができない」ということなのだろう。し

かし、世の中はトレードオフだ。時間がない

なら、どちらかに決めなければならぬ。む

しろ、「何かをはじめるなら、何かを捨てな

ければいけない」ということは、当たり前

なことだとおくことだ。(以下省略)

私が一番使うのは忙しい、時間が無いとい

う言い訳なのですが、この記事を読んで少し

恥ずかしくなってきました。やめるという決

断が出来ていなかっただけなんです(涙)

何かを得ようとするれば何かを捨てなけれ

ばならない。特に時間は誰にでも平等に24

時間が与えられています。もし、何か事を起

こしたのであれば、なんの時間を辞めるの

かそこをしっかりと考えなければならぬ

と痛感しました。そして「でも」という言葉

を使わないようにしたいと思えます。

### 子供に読み聞かせたい日本人の物語

### 書籍紹介

先月のYES通信でも紹介させていただいた占部先生の本です。他にも著書があり私も5冊ほど買いましたが、この本が一番読みやすいです。小学校の高学年なら十分読めるのではないのでしょうか？しかも、大人が読んで「そんな人がいたのか〜」と日本人としてとても嬉しくなる本です。人間学を学ぶ月刊誌「月刊致知」で有名な致知出版から出版されているのも頷けます。ここに出てくる人々は決して有名な人ばかりではありません。また、地位のある人ばかりでもありません。一所懸命に生きてきた日本人の中に真実の人たちがいる。そういう真実の人たちの体験やそこで得られた英知に学ぼうという本なのです。この本の中でいちばん興味深かった人物は脚気を撲滅した医師高木兼寛です。当時細菌が原因だとされていた脚気を食事療法で解決した人物です。日本では当時ドイツ医学が主流だったため森鷗外を筆頭とする東大医学部等の批判を受け日本では全くの無名でしたが、海外ではビタミン学説が登場する10年も前に脚気撲滅を達成した人物として、イギリス人が高木岬と地名に命名するほどの人物だったそうです。このようなたくさんの先人たちのおかげで今の日本があると改めて感動しました。親が読んで子供や周りの人に話したくなる本なので、是非読んでみてくださいね(^-^)/

